

「ママと防災」開催レポート

浪速区まちづくりセンター

去る 2016 年 10 月 4 日（火）、第 23 回なにわ区ラボ「ママと防災」を開催しました。ラボは 3 部構成で行い、第 1 部では浪速区で今後想定される地震の規模や被害とその対策について、第 2 部ではいざという時に自らと子どもをどう守るのか、日ごろから家庭で備えておきたいことについて、そして第 3 部では参加者からの質疑応答と子ども達も交えた体験の時間を持ちました。当日は、浪速区社会福祉協議会の協力を得て、託児スペースも設置し、たくさんの子育て世代の保護者の方々と防災について考え、学ぶ機会を持つことができました。

1. 浪速区の地域特性と防災のとりくみについて（浪速区市民協働課 竹村防災担当係長）

■浪速区の被害想定

- ・南海トラフ巨大地震では、浪速区は震度 6 弱の地震が来ると想定されている。プレート型地震の場合、津波が起こり、同区では西側エリアで 2～3 m の浸水が予想されている。津波が来るまでには約 2 時間あると考えられているのでその間に出来るだけ東又は高いところに避難して欲しい。
- ・上町断層など内陸直下型の地震が来た場合、震度 6 強～7 の地震がくると予想されている。
- ・大型の地震が来るとライフラインがストップし、復旧にも時間を要する。



竹村さんのお話を聞く参加者の皆さん

■地震への備え

- ・行政で確保している食糧備蓄は 1 日分ほどしかないのが現状。水や当面の食糧など個々でもしっかり備えてほしい。
- ・地震の被害をできるだけ減らすためにも、家具の設置場所や転倒防止など対策が必要。
- ・浪速区ではより実践に近い内容で避難所開設運営訓練を行なっている。避難所で生活していくためには、ルールや役割分担が大切。どういったケアやルールが必要かは立場によっても違うので、話し合いの場などには是非積極的に参加して女性や子どもの立場から意見を言って欲しい。小型テントの使用等も避難所のルールに従って判断を。

2. 自分とわが子を守る防災（防災士 田井尚美）

■私が防災士になったわけ

- ・2人の子どもが 2 歳と 6 ヶ月のときに阪神淡路大震災に遭った。ライフラインがストップし、水の確保など大変な経験をしたが、時間が経つと忘れてしまっていた。東日本大震災を機に、防災・減災の大切さを伝えようと防災士になった。
- ・阪神淡路大震災当時、今よりも防災意識は低く、「神戸には地震は来ない」と言う人もいた。自分は食器棚やタンスに突っ張り棒など防災対策をしていたので被害が最小限で済んだと思う。地震が来るのは止められないが、備えれば減災はできることを知っていてほしい。



やさしい語り口で聞きやすい田井さんのお話

■田井さん流 防災・減災のアイデア

- ・大規模な地震の後、特にマンションでは絶対にトイレは使わないで欲しい。マンションは排水管が巡っており破裂していると排水が漏れる二次被害を引き起こす。直後は水が流れるかもしれないが利用は控えて欲しい。
- ・ライフラインが止まって一番大変なのはトイレ。子ども達を守るためにも親御さんにはまず自らオシメを付けてもらうことを勧めている。抵抗があるかもしれないが、飛行機のキャビンアテンダントや駅伝のカメラマンは非常時を想定して使っている。是非、日ごろから練習しておいてほしい。
- ・地震後はエレベーターも使えない。高層階に住んでいる方は上下の移動だけでも大変。1 階の駐車スペースなどにも最低限の非常グッズ（水やオシメなど）を備えておくといい。
- ・両親、祖父母の写真と連絡先を書いた「緊急連絡カード」を水に濡れても大丈夫なようにラミネート加工して是非備えて欲しい。子ども達が幼稚園や学校で被災した際、子どもの引渡しなどにも役立つ。
- ・母子手帳の情報や家族のとおきおきの写真などは、ネット上のサーバーに保存しておく安心。
- ・普段の散歩のときなどに、避難経路や危険だと思うもの（崩れそうなものや落ちてきそうなもの）を確認して欲しい。
- ・災害で生活環境が変わることは子どもにとって大きなストレス。日頃から寝袋やランタンでの生活を体験してみよう。

田井さんの非常用バッグ大公開



ブラ付下着
一体になっているので
便利

予備のエコバッグ
100均でOK!
物資をもらうのに便利

化粧水・クリーム
災害時、後回しにされが
ちなものは自分で

笛（ホイッスル）
助けを呼びたいとき、
声はなかなか届かない

マスク・携帯ポンチョ
埃、雨風、
寒さ対策に

ラップ
救急時・避難時
とにかく万能！

歯ブラシ
口内を清潔に
保つことは大切

小銭
公衆電話用 10円硬貨。
使ったら次の人へ

その他、救急セット、メモ帳・ペン、ウェットティッシュ、ティッシュなど

3. 質疑応答（ラボ終了後のアンケートに書かれていた質問にもお答えいただいています）

Q.1 どの時点で避難所に行く判断をすればいいのか？

A.1 ライフライン他、様々な要因での判断が必要。家庭内でもどのような状況になれば自宅での生活が困難になるか考えておいてほしい。また、避難所のカギは、3名の地域防災リーダーに預けており、避難所が必要と判断した場合は自主的に解錠して頂ける。

Q.2 避難所には定員があると聞いたが、避難できる人とできない人の差は？

A.2 厳密に定員は決まっていないが、避難するスペースが無くなったら受け入れを断らざるを得ないので、予め複数の避難所をチェックしておいてほしい。また、物資や情報は避難所に集まるので、避難所にいない人は取りに来て頂く、又は確認しに来て頂く必要がある。

Q.3 近年増加している外国人観光客にむけた災害時の伝達方法など対策は？

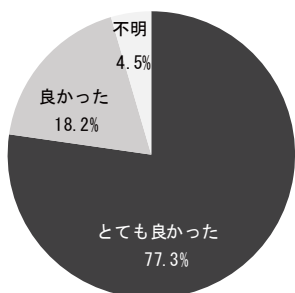
A.3 南海なんば駅やなんばパークスを緊急時の集合場所とするよう周知を始めているところ。多言語での災害時マップなども準備を進めている。

Q.4 浪速区西部にいて津波が予測されるとき、避難指定ビルに逃げるのか東に逃げるのか？

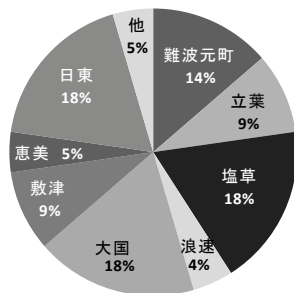
A.4 津波は地震発生から約2時間後に大阪市に到達すると想定している。浪速区にいるのであればどちらを避難していただいてもいい。緊急を要する場合はとにかく垂直避難（高いところへ避難）してほしい。

4. アンケート結果

◎ママと防災について



◎お住まいの地域について



自由記入欄

- ・阪神大震災の体験からの防災の話やグッズを見られて良かった。子どもの防災グッズばかり考えていましたが、自分のコトも大事！
- ・今回のようなセミナーは数回にわけて行ってもいい。まずは地震発生時、大げがしないことが大事。
- ・田井さんに地域でお話をして欲しい。
- ・何となく防災については考えていたが、このような機会を設けて頂いて再確認できた。
- ・住んでいる地域の情報が分かって良かった。
- ・地域の防災訓練では備蓄品のことまでは分からなかったので今回参加して良かった。
- ・家具の配置を考え直そうと思った。